

建設業は、地域を支え、生活を豊かにし、暮らしを守っています。

道路や橋などの社会インフラや、学校や病院、台風や地震の防災・減災施設など、私たちの暮らしを支え、豊かにし、守っているもののほとんどが「建設」という仕事によってつくられています。それを実践し、維持・管理し、もしものときには修繕や復旧活動にも駆け付けているのは地域の建設業です。長野県建設業協会は、建設の仕事を通じて、地域に貢献しています。



一般社団法人
長野県建設業協会

〒380-0824
長野市南石堂町1230番地 長建ビル内
TEL: (026) 228-7200 FAX: (026) 224-3061
E-mail: info@choken.or.jp



長野県
建設業協会

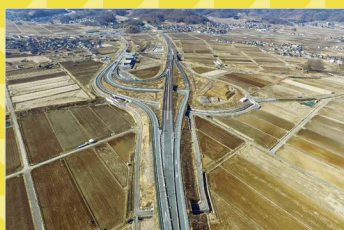


長建
ヤングマン



女性部会

土木



物流を支える道路や橋梁、トンネル、暮らしを守るダムや護岸設備、砂防えん堤などをつくり、維持する、土木の仕事をしています。社会を支えるインフラの整備、維持管理に、建設業は欠かせません。

建築



人が安心して住むことができる家やビルをはじめ、学校、病院、コンサートホール、スタジアムなどをつくる、建築の仕事をしています。建設業は、地域の皆さんが豊かに暮らすための施設をつくっています。

災害対応・復旧



ひとたび災害が起きれば、復旧・復興のための仕事はもちろん、いち早く被災地に向き、自衛隊や消防が入れるように状況を調べ、道を整える災害対応をしています。台風19号でも、決壊した堤防の復旧や落ちた橋の修復、浸水した街からの泥出しなど、昼夜を問わず復旧活動を実施しました。

担い手育成



工事現場見学会の開催や、県下高校での土木建築の2級受験準備講座の支援をすとも、新入社員を対象にした毎年の研修会など、担い手育成に努めています。また、完全週休2日制の導入や働き方改革、育児休暇の保証や女性活躍など、働きやすい環境づくりに努めています。

地域貢献



台風や地震などの応急復旧や雪が降った際の除雪作業はもちろん、清掃ボランティアや「菊で一杯」運動など環境美化で地域に貢献しています。豚コレラが発生した際に、防疫のための埋却作業を行ったのも建設業です。千葉県が台風15号で被害を受けた際にも、長野県から救援に駆け付け、ブルーシート張りを行いました。

広報活動



公式ホームページで情報発信をしているほか、動画サイト「長建ヤングマン」では建設の仕事面白く伝え、女性部会の活動ホームページでは女性技術者・技能者の働く姿を紹介。ビジュアル型フリーマガジンとして発行している「LIFE」も好評です。

公益財団法人 建設業福祉共済団

〒105-0001
東京都港区虎ノ門1-2-8 虎ノ門琴平タワー11階
TEL: 03-3591-8451 FAX: 03-3591-8474

■ 取扱機関: (一社)長野県建設業協会
〒380-0824 長野市南石堂町1230
TEL: 026-228-7200 FAX: 026-224-3061

建設共済保険

検索



「技能者」と「技術者」

建設で働く人たちには、大きく分けて「技能者」と「技術者」という違いがあります。

「技能者」とは、建設工事にかかわる作業を直接実施する人たちで、そのために必要な技能を持っています。たとえば重機を操作したり、構造物を組み立てたりといった仕事をします。

「技術者」は、そうした技能者の人々をマネジメントし、協力して、施工管理を行う人たちです。基本的には、直接的な作業を行うことはありません。その代わりに、3次元などのさまざまなデータを使い、安全管理と品質管理をし、現場で働く人たちの調整、さらには指導を行う人たちです。

どちらも、地域を支えるのに欠かせない、とてもやり甲斐のある仕事です。

若手の活躍



清澤 祐介さん
1993年生まれ

日々のインフラ整備や冬場の除雪などを担う建設業は、まさに『縁の下の力持ち』。地域に密着して、地域を支えているということが最大のやりがいです

2019年1月に初めて現場代理人を任された清澤祐介さん。大学を卒業後、県内の建設会社で3年間の修業を積み、2018年の春からお父さんが社長を務める総合建設業の会社に入社した若手技術者だ。

建設業で技術者として働く魅力は「地域に密着して、地域を支えていること」だという清澤さん。道路などのインフラ整備に加え、雪が降れば除雪作業に出動する。そうした仕事を「縁の下の力持ち」と表現する。

修業時代には、主に橋梁の補修工事や下水道の管更生、既設歩道橋の撤去などの現場を担当してきた。そこで技術力を磨き、工程管理や安全管理、さらには協力会社の作業員の人たちなどを指揮し、工事全体を監督する「現場代理人」としてがんばっている。

今後については聞くと「現場での段取りや周囲への目配りなど、今まで指導していただいたことを生かして、一人前の現場代理人として活躍できるよう努力していきたいです！」と力強く答えてくれた。



青木 喜々さん
1999年生まれ

現場の全体像が見えるようになってきて、自信がつかってきました。先輩が現場を回す様子を見ていて、自分も早く一人できるようになりたいと思います

「現場代理人って、こんなに大変なんだ！」というのが、先輩方の仕事を実際に見たときの正直な感想だったという青木さん。「工期通りに終わるようスケジュールを管理したり、天候や作業内容に合わせて瞬時に判断したり、すごい」という。

けれど「2年目になったときには自分でも現場の全体像が見えるようになってきて、少しずつやり方を覚えたりコツを掴むことができるようになってきました」という。「自信がつかってきました」と笑顔だ。

いつも同じ現場で自分の成長を見守ってくれている先輩がいて、助けてもらっているという。「『女性技術者が働きやすい現場にしたい』と、事務所の内装を変える提案をしたときも『好きにやってみるといいよ』と、背中を押してくれました」。そんな先輩に少しでも近づきたい。まずは資格から、と勉強する毎日だ。

「先輩は、若手に『経験だから』と少しずつ作業を任せてくれます。そんな先輩が現場をスムーズに回す様子を見ていて、自分も早く一人できるようになりたいなと思います」

キャリアモデル

case1. 大学(指定学科) 卒業の場合



case2. 高等学校(指定学科) 卒業の場合

